

# こころの玉手箱 12月号



## 42 世界を変えた男 ジャッキー・ロビンソン

アメリカのメジャーリーグでは毎年4月15日に、選手・コーチ・監督のすべてが背番号「42」を着用してプレーしているのを知っていますか？ この日4月15日は、「ジャッキー・ロビンソンデー」と言われています。先月学習したイチロー選手のように、今ではメジャーリーグで活躍する日本人も珍しくなくなりましたが、以前は挑戦すらさせてもらえない、高い高い壁があったのです・・・



### ☆ 1年生 ☆

- ☆ 私はジャッキー・ロビンソンという人を知りませんでした。今では、日本人や黒人の人も野球をしているけれど、当たり前ではなかったことに驚きました。ジャッキー・ロビンソンという人は、本当にすごい人なのだという事を知ってよかったです。
- ☆ どんなに罵声を浴びせられても嫌がらせをされても屈せず、忠実に監督との約束を守ったのがすごいと思います。仕返しをしてはいけないのは当たり前でも、それをしないのはとても難しいことだと思いました。
- ☆ 江口いとさんに続いて、ロビンソンさんやリッキーさんも差別をなくそうとしたのを聞いて、私もそのような3人のように差別をやめさせる人になりたいと思いました。
- ☆ 『やり返さない』ということは誰にでもできることではなく、実際自分もそんな勇気を持っていません。やられたことにやり返して、関係を悪くするのではなく、少し自分が我慢をして関係を良くしようと思いました。

### ☆ 2年生 ☆

- ☆ ただ黒人と言うだけでどうして差別されるのか？そして何も悪くないし差別する人が悪いのに、ロビンソンが変わらなければいけないのか？でも、ロビンソンが変わったから今があると思うと、とてもすごい人だと思った。
- ☆ ロビンソンさんの努力だけではなく、他の人たちの協力があったからこそ、人種差別の壁を破れたのだと思いました。自分のプレーだけではなく、人間性も他の選手に認めさせたところが心に残りました。
- ☆ 何をされてもやり返さない、耐え抜くメンタルの強さに感動しました。私も何をされてもやり返さない強く正しい人になりたいと思いました。
- ☆ 誰もしたことがないことに挑戦するのはとても勇気がいるし、不安もあると思います。でも、ジャッキー・ロビンソンさんは夢のために頑張り続けた結果、活躍できました。僕もこれから、夢や目標のために必死で努力し、挑戦していきたいです。

### ☆ 3年生 ☆

- ☆ 映画の予告で何回も見たことがあって、全球団の永久欠番というのを知っていました。いつか見てみたいと思っていたけど、この話を聞いてもっと見たくくなりました。ずっと差別に関して勉強してきたけれど、本当に強い心をもった人だと思いました。
- ☆ 野球に肌の色など関係ないし、肌の色を理由に嫌がらせをするのは、人間としておかしいと思います。私もロビンソンのように、自分の行動で、多くの人の希望の星のような存在になりたいです。
- ☆ 小さい時、よくお母さんに「何か嫌なことをいわれても、言い返していたら何も変わらんで」と言われていたのを思い出しました。「何かされたら、やり返すのでは何も前に進まない」というブランチ・リッキーさんの言葉を大切にしようと思います。
- ☆ ジャッキー・ロビンソンは人柄がよかったのだと思います。ブランチ・リッキーからもらった差別から抜け出すチャンスをちゃんとものにして、本当にすごいと思います。並の根気ではできません、絶対。

### 保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して、感想などをお気軽にお寄せください。

-----切り取り線-----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

みなさんは、アメリカのメジャーリーグでは、毎年4月15日に全選手、コーチ、監督のすべてが背番号「42」を着用してプレーをするのを知っていますか？この日4月15日は、「ジャッキー・ロビンソンデー」と言われています。

1947年4月15日、ブルックリン・ドジャースの本拠地であるグラウンドに、背番号42を付けた黒人選手が現れました。この選手がジャッキー・ロビンソンです。アメリカのメジャーリーグの人種差別の壁を破った瞬間でした。彼が成し遂げたことすべては、決して単純なものではありませんでした。それまでのアメリカメジャーリーグは、白人選手だけにしか出場が許されていませんでした。彼は、人種差別の壁を破った最初の人物です。1940年代のアメリカの根深い人種差別の風潮の中、彼は、メジャーリーグの人種差別の壁を破り、すべての人種に門戸を開いたのでした。

ロビンソンは、打っても走っても盗塁しても他の人より優れていました。最初の年、彼はドジャースを優勝へと導き、新人王を獲得しました。1949年には、最優秀選手賞を受賞しました。オールスターゲームでもプレイしました。

大活躍をしたロビンソンですが、最初は黒人というだけで、受け入れてもらえませんでした。ロビンソンが試合に出るのならと、対戦を拒否するチームもありました。同じチームの選手ですら、ロビンソンと一緒にプレイするのを嫌がり、試合をボイコットしたり、移籍したり、嫌がらせをしたりする選手もいました。当時の嫌がらせは相当悪質だったそうです。そのような悪い環境の中、ロビンソンはどうやってメジャーリーグで活躍できるようになったのでしょうか？もちろんロビンソンの努力は言うまでもありませんが、ロビンソン一人では、なし得なかったかもしれません。妻のレイチェルはロビンソンを支え続けました。そして、もう一人ロビンソンの才能を見だし、世に出した人物の存在も忘れてはいけません。その人こそブランチ・リッキーです。

ロビンソンはもともと差別を許さない、差別には抗議する性格で、けんかっばやいところもありました。そのような荒い気性のロビンソンと、当時ドジャースの球団社長であるブランチ・リッキーは、リーグ、大衆、そして選手たちからの猛烈な反対を押し切り、ロビンソンと契約しました。リッキーがロビンソンに最も求めたことは、差別を受けたときに「やり返さない勇気を持つ」ことでした。そして、リッキーは「君はこれまで誰もやっていなかった困難な戦いを始めなければならない。その戦いに勝つには、君は偉大なプレーヤーであるばかりか、立派な紳士でなければならない。仕返しをしない勇気を持つことだ。」とロビンソンを諭しました。この約束をロビンソンは、忠実に守り、いくら罵声を浴びせられても、嫌がらせを受けてもそれに屈することはありませんでした。

そのようなロビンソンの頑張りが、まわりの選手や野球ファンの心を動かしました。ドジャースの監督は、「自分は選手の肌が黄色であろうと黒であろうとかまわない。自分はこのチームの監督である。優秀な選手であれば使う。もし自分に反対するものがいたら、チームを出て行ってほしい。」と語りました。ロビンソンは常に紳士的に振る舞い、チームメイトから受け入れられるようになりました。そして彼は、何億という人の、特にアフリカ系アメリカ人の希望の星となりました。

### 保護者からの声 『イチローの言葉』

- 人生は困難を乗り越えてはじめて成功となります。どんなことに対しても真剣に、コツコツと取り組んでいくことが大切です。
- 壁にぶち当たると逃げたくなる。けれど壁を乗り越えてこそ成長できる。壁の向こうに希望や自分のやりたいことが見えたら、自分から向かっていき、挑む人になって欲しい。娘も同じ言葉を選んでいたので、共感し合えました。
- プロとかは関係なく、目標を持って過ごせることは素晴らしいことですね。

-----いつもたくさんのご返信、ありがとうございます。紙面の都合上、ご返信頂いた感想の一部のみを掲載しています。ご了承ください。